

父母と教職員のつどい 2022

11月3日(木・祝)、市従会館において、浜高教主催、「父母と教職員のつどい」が開催されました。本年度は、話題の映画『教育と愛国』上映と齊加尚代監督をお招きしての講演を実施しました。



前半の『教育と愛国』上映会は、4階ホールにて、13:00～14:50に行われました。この作品には、軍国主義の反省から、戦後、政治とは一線を画してい

た教育が、2006年、第一次安倍政権による教育基本法改変を機に変わっていき、「愛国改革」、「教育再生」の名の下、政治の影が強まり、教科書問題、延いては日本学術会議任命拒否問題にもつながっていく過程が丁寧に描かれ、教育を取り巻く現状の深刻さに恐怖を覚えた参加者も多かったのではないのでしょうか。

後半は3階会議室に場所を移し、15:00～16:30に、齊加尚代監督により、作品解説、作品制作に関わる裏話などを講演いただきました。齊加監督は、毎日放送報道局ディレクターとして、様々な社会問題をテーマにして、精力的な活動をなさっている方です。大変興味深いお



話の中で、最後におっしゃられた、「教育は誰のためのものなのか」という問いかけが印象に残りました。息苦しい情勢の中、教育に携わるものとして、大切にしていかなければいけない言葉なのではないのでしょうか。

参加者は、組合員52名、一般42名、合計94名(内、組合員12名、一般2名がオンライン参加)でした。本年度は、コロナ禍にありながら、一般参加も再開し、昨年に引き続き盛況の開催でした。教研は、組合活動の柱の一つです。仲間と、市民と共に一致協力し、貴重な学びの場を作り上げていきましょう。(井上大司)

差別のないまちづくり

十月二十六日(水)、かながわ県民センター301会議室において「差別のないまちづくりに向けた課題と展望」という集会在「横浜市国籍条項撤廃連絡会」などの主催で開催されました。

はじめに横浜市国際局の松本貴之さんから「横浜市の多文化共生の取組」が報告されました。「現在、横浜市には全国で二番目に多い一六〇カ国から一〇四、九二六八(人口の二・八%)の外国人が住んでいる。区別にみると中区(一〇・六%)、鶴見区(五・五%)、南区(四・

四%)の順になつていいる。横浜市における在住外国人支援の体制としてはYOKE(公益財団法人横浜市国際交流協会)が十一か所の国際交流センターにおいて情報提供・生活相談、日本語学習、地域交流・地域活動などを行っている」とのことでした。

次に、藤本俊明さん(大学講師)をコーディネーター、妻安さん(NPO法人かながわ外国人すまいるサポーターセンター)、新倉久乃さん(カラバオの会)、李智子さん(横浜市立高校常勤講師)をパネリストとしてパネルディスカッションが行われました。それぞれが外国人差別がある現場にいる立場から「差別される側は希望を失うので、差別は許さなくてはいけない。『差別はいけない』と教えている現場で『差別』が行われている。『差別をなくそう』とお願い続けることが大切である。・・・』などの意見がだされました。(木立敏樹)

2023年度教育予算要求

〔全体要求・分会要求〕



9月29日(木)、18:19時、市庁舎14階みなと5会議室において、浜高教は一回目の教育予算要求を行い、2023年度に向けた全体要求と分会要求を提出しました。

市教委労務課から大木担当課長、伊藤担当係長、清水担当職員、浜高教から井上副委員長、三木書記長、新宅書記次長、大山執行委員、乙守執行委員、伴在執行委員、各分会代表者の出席により交渉は行われました。

全体要求に関する三木書記長からの説明は、機関会議などで話題となった、大会自校開催での部活動特勤問題や昨年度からの初任者中学強制異動問題に関する要求、また、本年度新たに加えられた、教職員勤務実態調査の実施とそれに基づく具体的な業務計画の作成、本人コロナ陽性の職免適用、欠勤等に対する臨任配置、人事異動での管理職からの丁寧な説明、定年延長に伴う計画的な新規採用、臨任の病気休暇の増加、教員免許更新制に代わる研修制度の負担軽減と適切な運用などに関することを中心に行われました。そして、分会代表者により、各分会からの切実な要求についての説明が行われました。その後、昨

年度からの高校初任者が初回の異動において中学校に行くことが強制される問題について、要望を呈示する機会が特別に設けられ、青年部に所属する参加者を中心に、当事者のモチベーションや現場に与える甚大な影響と負担、横浜で教員を志す者と検証方法など様々な視点からの指摘がなされました。終わりに、大木担当課長より、現場の切実な声として十分に検討し、回答する旨が告げられました。当局に対し、現場の声を届けることは簡単なことではありません。しかし、無理のある業務負担増加、現場への十分な説明や対話を軽視する一方的な押し付けなど、劣悪な労働環境を黙って受け入れるわけにはいきません。次世代を担う仲間のために、組合員一同協力してがんばりましょう。(井上大司)

2023年度教育予算要求

〔各部要求・再任用・臨時的任用・会計年度任用職員要求〕

11月15日(水)、18時より、市庁舎18階みなみ16会議室において、浜高教は、2023年度に向けた二回目の教育予算要求を行いました。

出席者は、市教委労務課からは伊藤担当係長、清水担当職員2名、浜高教からは井上副委員長、三木書記長、渡辺書記次長、新宅書記次長、大山執行委員、伴在執行委員、各分会代表者(4名)の10名でした。

まず、各部要求に関する説明が行われました。実習教員部からは実習教員の待遇改善、補職名と経験年数についての改善、正規職員の配置、スキルアップのための研修の充実など、青年部からは高校初任の初回異動で中学異動が強制されることの見直し、一人一台端末を有効に活用するための環境整備、部活動

指導員の増員、部活動大会自校開催での特勤手当改善など、女性部からは子育てや介護に関する制度改善、横浜商業別科単独スクールカウンセラー配置、高校養護教諭の原則高校内異動など、障教部からは学級編成基準改善、臨床指導医等派遣要綱に基づくもの以外のスクールカウンセラー配置、各校の実態に応じた看護師の増員、高度な専門性を考慮した人事異動年限の柔軟な運用、県との人事交流が柔軟にできるような人員配置、2023年度から高校で実施される通級による指導が県教委の連携によって生徒にとってより良いものであるための制度作成などの項目が訴えられました。続いて三木書記長から、再任用については本人のキャリア希望に基づき配属、定数外

としての任用、異動対象外とする、短時間勤務での持ち時間削減、給与及び期末勤手当の改善、定年引上げ後の常勤職員との賃金の均衡など、臨任については産育休代替臨任年度当初任用の国に先行した導入、更新回数による制限撤廃、正規採用に向けた施策、月途中からの任用における通勤手当や諸手当の割合での支給、病休や介護休の増加など、会計年度任用職員については5年を超える任用に対する無期雇用に向けた施策、他の職の任用を更新回数に通算しないこと、妊体免講師の勤務日数の増加、やむを得ない超過勤務に対する賃金の支給、月額給引き上げに関する遡及、打ち合わせ時間の保障、時間外勤務の病休の有給化と結婚・祭日・社会貢献活動休暇の新設、時間外勤務の休業期間中勤務のある職に対する夏季休暇の新設、月額職の骨髄等体協休暇の新設、時間・月額職の出産休暇・男性職員の子育参加休暇の改善、時間・月額職の本市教員採用試験受験などの項目を中心に説明を行い、対応を求めました。

終わりに、伊藤担当係長より、予算、情勢等の問題もあり早急な改善は困難かもしれないが、子どもたちの未来のために取り組む意志は教育委員会も現場も同じであり、要求に対し十分に検討し、回答するということが告げられました。

よりよい教育を求める意志が市教委と共有されているのであれば、要求実現の可能性はあるということでしょう。希望を失わずに訴えましょう。子供たちと若い仲間のため、一致団結してがんばりましょう。(井上大司)

「障教・定時制分科会」報告

去る11月5日(土) 13時20分より市従会館第四会議室にて、浜高教教研「障教・定時制分科会」が行われました。今年は差し迫った課題である、高校通級をテーマに、「全教障教部関東甲越ブロック学習会in神奈川」の第4分科会「通級指導」に合流する形で実施しました。

まず、東京の小学校で特別支援教室(通級指導)を担当している小池雄逸さんから実践の報告を聞きました。小池さんは受け持ち校4校、ほぼ毎日出張で各校に向き、個人指導、集団指導、面談指導、それぞれの学校の先生方とのケース会議をこなされています。「困ったときに相談できる力」、合理的配慮を求める力を含めた「自立する力」を支えることを大切にしている、など小学校の通級の具体的な指導内容が見えてきました。

2本目のレポートはろう分会の川村ひとみさんから、担当されている難聴・言語障害通級指導教室



数年ぶりの開催となった青年部交流会。第一弾としてダーツの個室貸切でのダーツ会を行いました。次々とくる色鮮やかな

青年部交流会 ダーツ

料理や飲み物に目を奪われ、はじめダーツの存在を忘れておりました。学生の頃多少嗜んだ人もいましがた久しぶりのダーツにはしゃぎ盛り上がりを見せました。次第に場も和み、同世代にしか話せない悩みや不安なども話せる雰囲気になりとても有意義な時間がおくれたと思います。かつてのように遠出するのは難しい現状ですが、少しずつ青年部としての結束を強めていく第一歩になった、そんな交流会でした。

8月25日、青年部交流会第二弾が開催されました。内容は「ボードゲーム」。横浜駅付近のボードゲームカフェに集まり、参加者の希望や店員さんおすすめのゲームをプレイしつつ、和やかに交流を深めることができました。プレイしたゲームは、ハイパーロボット、インサイダーゲーム、コヨーテ、騎兵ゴルフなど。教材としての可能性を感じられるものもあり、その場で購入する参加者も。間口を広げて定期開催してもいいのでは?との声も上がっていました。(戸定分会 吉沢歌音)

備など具体的な課題が紹介され、最後は横総通級準備委員会の下村治さんから来年度から始まる横総の通級指導の計画について聞き度横総で「自校通級」、翌年度から全市立高校への「巡回指導」が計画されています。下村さんは、「どの生徒にもやさしい、数学授業のユニバーサルデザイン(中学校数学サポートBOOKS)」の著者であり、中学校での通級指導を長年経験してきた方で、現在は来年度開設の通級開設の計画に携わっています。高校は「限られた選択肢の中ではあるが、自ら選んだ学校」であり、そういう意味で、集団の構成員が学校ごとに違い、それぞれの学校がそれぞれの課題を抱えています。そのため、それぞれの学校の環境にあった通級を作る必要がある、全員のニーズをかなえることはできないが、通級指導によって一人でも二人でも学校が居心地よくなる可能性がある、生徒への直接支援は2割、保護者支援、担当の先生支援、学校の環境整備、関係者の連携促進

などの生徒たちが安心して過ごせる環境づくりが8割、という話でした。元々特別支援教育の概念が沢山あり、「理屈が分かると意図的に実践できる、うまくいかないことには理由がありうまくいくためのヒントがある」、などなど授業実践につながるが見えてきました。その半面、対象生徒の絞り込み、「個別の指導計画」の作成、教育課程の追加または代替についてなど、巡回指導開始までに整備しなくてはならない面もあることが見えてきました。

参加者からも「三つのレポート、それぞれに学びがありました。すべての児童生徒が楽しく生活をしていくために我々教職員が研修を重ねて、日々の授業や学校生活を変えていくことが必要であると再確認させられた、良い機会でした」などの感想が寄せられました。東京、千葉など近県からの参加、オンライン参加もあり、総勢20名の参加でした。

障教部総会報告

6月9日(水)横浜ろう学校で障害児教育部総会が実施されました。11名が参加し、障害児教育の課題や改善に向けた取り組みについて活発な意見交換が行われました。

来年度から横浜総合高校、ろう学校、盲学校が始まる高校通級について各校の現状について報告があり、様々な課題があることがわかりました。課題解決に向けてどのような要望を出していけばいいのか、引き続き検討が必要であることがわかりました。

全教実習教員部第30回全国学習交流集会

@岡山市、備前市10/9~10



9日は岡山からバスで備前焼工房「夢幻庵」に行き、全体集会所して「備前焼手びねりコース体験」をしました。10日は岡山シティホテルにて「普通教科(理科・家庭科など)」「職業教育(専門教育)」「障害児教育」「教科外教育と実習教員運動」「青年教職員支援塾」の5つの分科会が開かれ、全体集会で今集会を終えました。

コロナ渦の中、2年間参集の形はとらずに、時期も考慮しながらリモートにて全国学習交流会は行われてきました。全国集会だけでなく各地方ブロックや全国定期大会も同様のリモート開催をしてきました。今回はコロナの行動制限も緩和されたこともあって、感

特別支援学校免許の有無による、人事異動の制約や、校内での人員配置の問題点についても各校の実情について情報交換が行われました。

その他にも各分会の課題について意見交換があり、今年度の活動方針について承認されました。障害児教育部として、障害児教育の改善に向けて力を合わせて取り組んでいきたいと思えます。

(ろう分会 佐々木麻里)

全教実習教員部では「教諭一元化」の制度改革運動を続けています。そして先輩方が「理科実験と実習教員問題の解決のために」の最終報告を出して20年が経過しました。一部の制度改革が前進した県もありますが、なかなか実現しない現実、運動しても動かない現実もあります。決して実習教員だけの問題ではなく、他の教職員との協力・共同をいかに得ていくかも今後の課題で、まだまだ問題は山積んでいます。(小島純)